

失

四年

画数 5
筆順 ノニ失
オン シツ
クシ うしなリウ

成り立ち

手 ↓ 逸 ↓ 失 ↓ 失 ↓ 失

「手」という字に、「ぬけおちる」という意味を表した「逸」と同じ音の「乙」を加えて作った字です。

「手からぬけおちる」という意味を表した字ですが、「物をなくす」こと、「うしなう」ことを表すのに使われます。

また、「しくじり」「あやまち」という意味にも使われます。【例】失敗、過失、失言。

〔逸は、「兎」と「辵」との会意字で、「兎のようにすばやい」意味（逸足）と、「兎のようにすばやく逃げる」意味から、「隠れる（隠逸）」「無くなる（散逸）」の意味がある。〕

使い方

▽失敗は成功のもとといえます。失敗を恐れている、何もできません。最初のうちは、だれでも失敗するものです。何回もやってみて、できるようになるのです。▽落としものをひろったので、近くの交番へ届けました。すると、おまわりさんは、それを「遺失物台帳」というノートに書き込んで、「届けてくれて、ありがとう」と言いました。

熟語例

▽紛失（何かに紛れて、なくすこと。）
▽遺失（忘れて、なくすこと。）
▽過失（落したり、忘れたりして、なくすこと。）
▽失業（仕事をなくすこと。「会社が倒産して、失業してしまった」などというふうには、つかいません。）
▽失明（目が見えなくなること。目が明るさを失う、という意味です。）
▽失敗（しくじり。うまくできないこと。）
▽過失（あやまち。しくじり）
▽失言（言っではいけない事を、言ってしまうこと。また、言いそこない）

借

四年

画数 10
筆順 一 卩 卩 借 借
オン シヤク
クシ かリリル

成り立ち

物 ↓ 借 ↓ 借 ↓ 借 ↓ 借

物がたくさん重なることを表した「艹」と「日」とで「むかし」という意味を表した「昔」と、「イ」とを組み合わせて作った字です。

「昔（むかし）の人」という意味の字ですが、「かりる」という意味に使われています。それは、この世の中の物はたいてい「昔の人」が作った物ですから、わたしたちはそれを「かりた」ようなものです。それで、「昔の人」という字の「借」で、「かりる」という意味を表したので

す。わたしたちは、昔の人のおかげで幸せにくらすことができたのですから、この世の中をますますつばにして後の世の人にお返ししなければいけないと思います。

使い方

▽お客さまがまだ帰らないうちに、雨がふって来たので、かさを貸してあげました。お客さまは、「では、拝借します」と言っでかさをさして帰りました。
▽ぼくの家は借家です。借金をしても、早く自分の家に住みたいと思います。

熟語例

▽拝借（借りることを、へりくだって言う言葉です。「お借りします」という意味です。）
▽借家（借りた家のこと。また、家を借りることです。）
▽借金（お金を借りること。また、借りたお金のことで「す」。）
▽借用（借りてつかうこと。「ちょっと、このサンダルを借用します」などというふうには、つかいません。）
▽貸借（貸し借り。貸すことと、借りること。「貸借対照表」といえば、事業で、お金の状態を知るために、借りと貸しをそれぞれに分けて表にしたものです。）
▽借款（国と国の間で、資金の貸し借りをすること。）
▽租借（外国の領土の一部を借りること。）